

4.2 河川管理との関わり（河川の自然度、健全度）

河川には、河口域などに広がるヨシ原や、洪水などによる攪乱によって成立する裸地や砂礫川原など特有の環境がみられ、様々の種に生息場（ハビタット）を提供しています。ここでは、河川環境に関わりの深い種の確認状況を整理しました。なお、1～3巡目調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしかみられない種もあることから、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を検討するための参考です。

【河川に関わりの深い種（オオヨシキリ、コヨシキリ）の確認状況】

（鳥類調査）

・ オオヨシキリは全国の13河川で確認、コヨシキリは4河川で確認

ヨシ原で繁殖する代表的な鳥であるオオヨシキリとコヨシキリの確認状況を整理しました。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川14河川のうち13河川、コヨシキリは4河川で確認されました。確認個体数をみると、オオヨシキリは東北地方の米代川、北陸地方の信濃川、中部地方の木曾川、揖斐川で、コヨシキリは北海道地方の天塩川で多く確認されました。

（資料掲載：4-12～13、4-41～42 ページ）

オオヨシキリは、東南アジアから渡来する夏鳥で、全国の水辺のヨシ原に生息する種です。海岸や河口、川岸、湖岸のヨシ原で普通に繁殖します。コヨシキリも同様に夏鳥で、全国の水辺のヨシ原にも生息しますが、ススキやヨモギなどが茂った乾いた草原に多くみられます。東日本では低地でも繁殖しますが、西日本では標高の高いところの背の高い草原で繁殖します。両種は、ともに昆虫類等を餌とします。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川14河川のうち、全国の13河川で確認されました。おおむね河川の下流から上流まで広く確認されました。年間総確認個体数をみると、東北地方の米代川、北陸地方の信濃川、中部地方の木曾川、揖斐川で多く確認されました。コヨシキリは、北海道地方の天塩川、湧別川、東北地方の米代川、北陸地方の信濃川の4河川で確認されました。年間総確認個体数をみると、北海道地方の天塩川でやや多く確認されたスポットがみられましたが、その他はおおむね数個体程度でした。

1～4巡目調査全体での確認状況を比較すると、調査実施河川数に占める確認された河川数の割合に大きな差はみられませんでした。

1～4巡目調査の確認河川数の比較

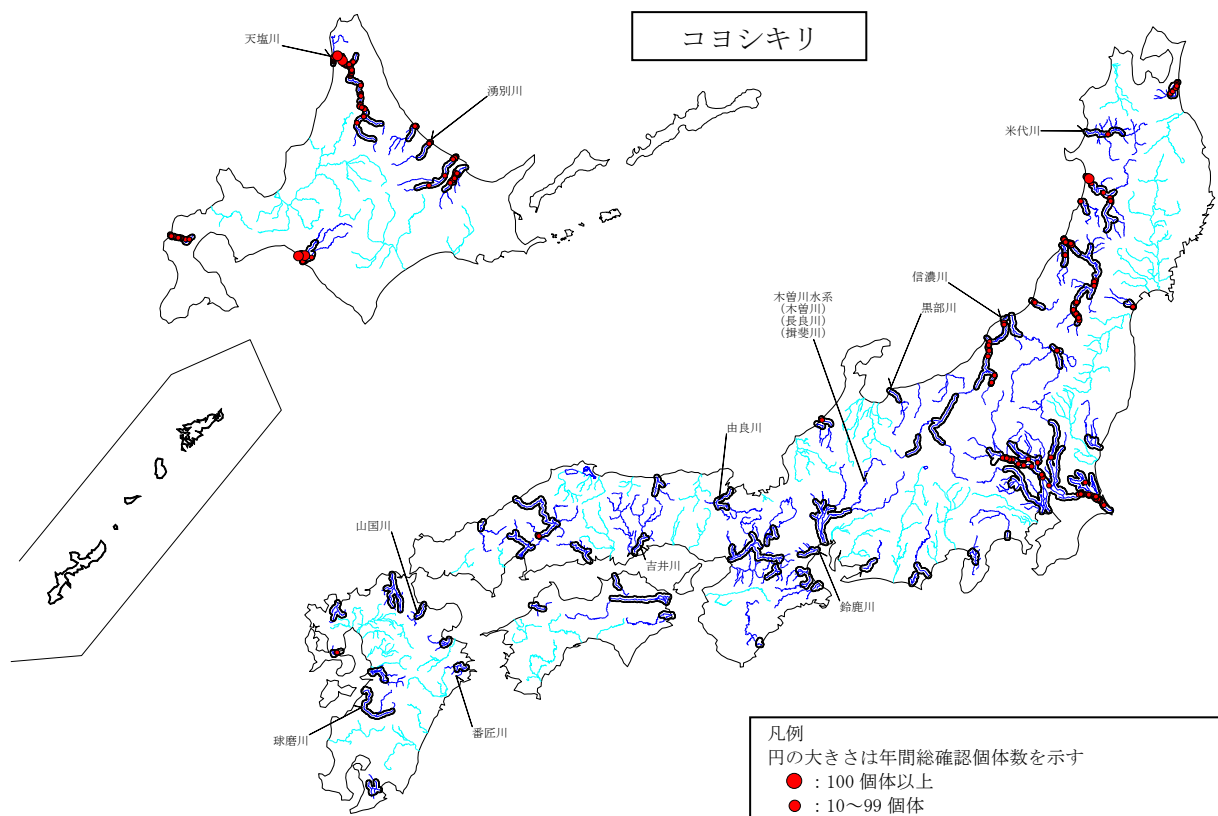
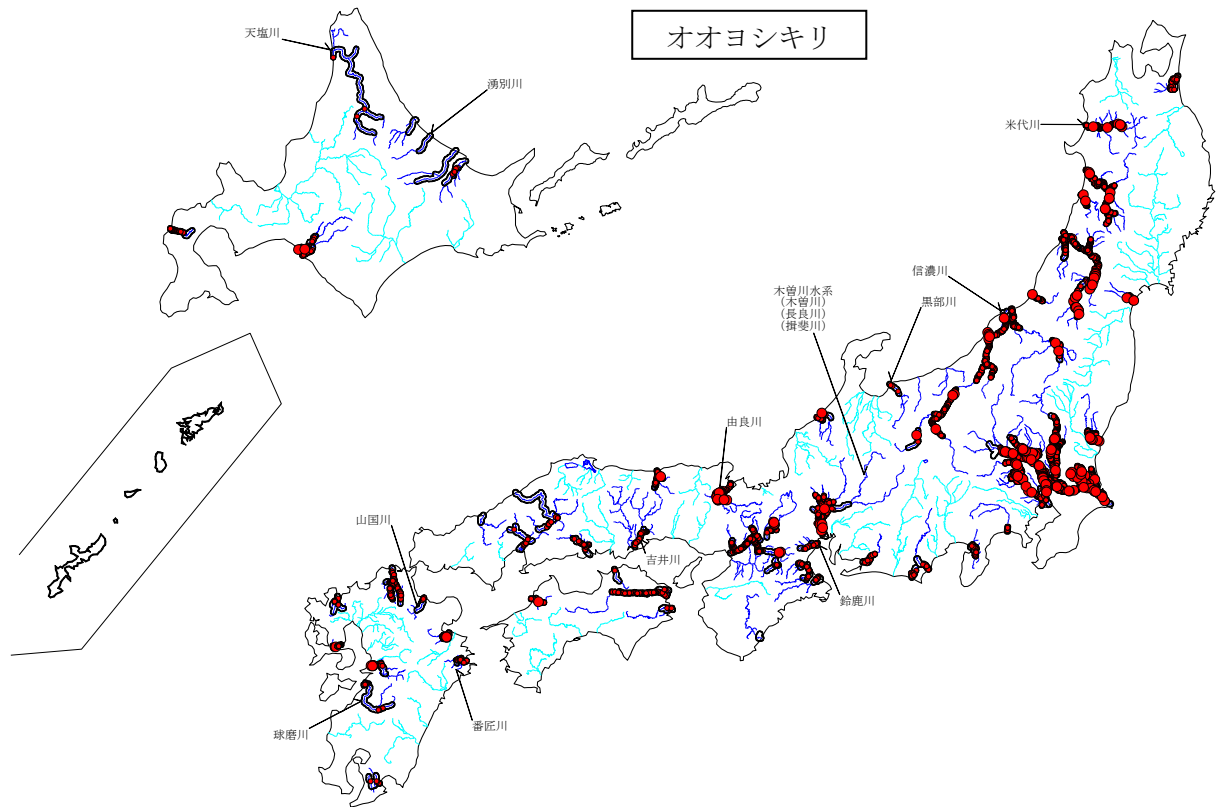
種類	1巡目調査 (81河川)	2巡目調査 (118河川)	3巡目調査 (122河川)	4巡目調査 (70河川)
オオヨシキリ	76河川 [93.8%]	113河川 [95.8%]	116河川 [95.1%]	65河川 [92.9%]
コヨシキリ	33河川 [40.7%]	55河川 [46.6%]	56河川 [45.9%]	27河川 [38.6%]

注1) 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

注2) 1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

注3) ()内は調査実施河川数を示す。

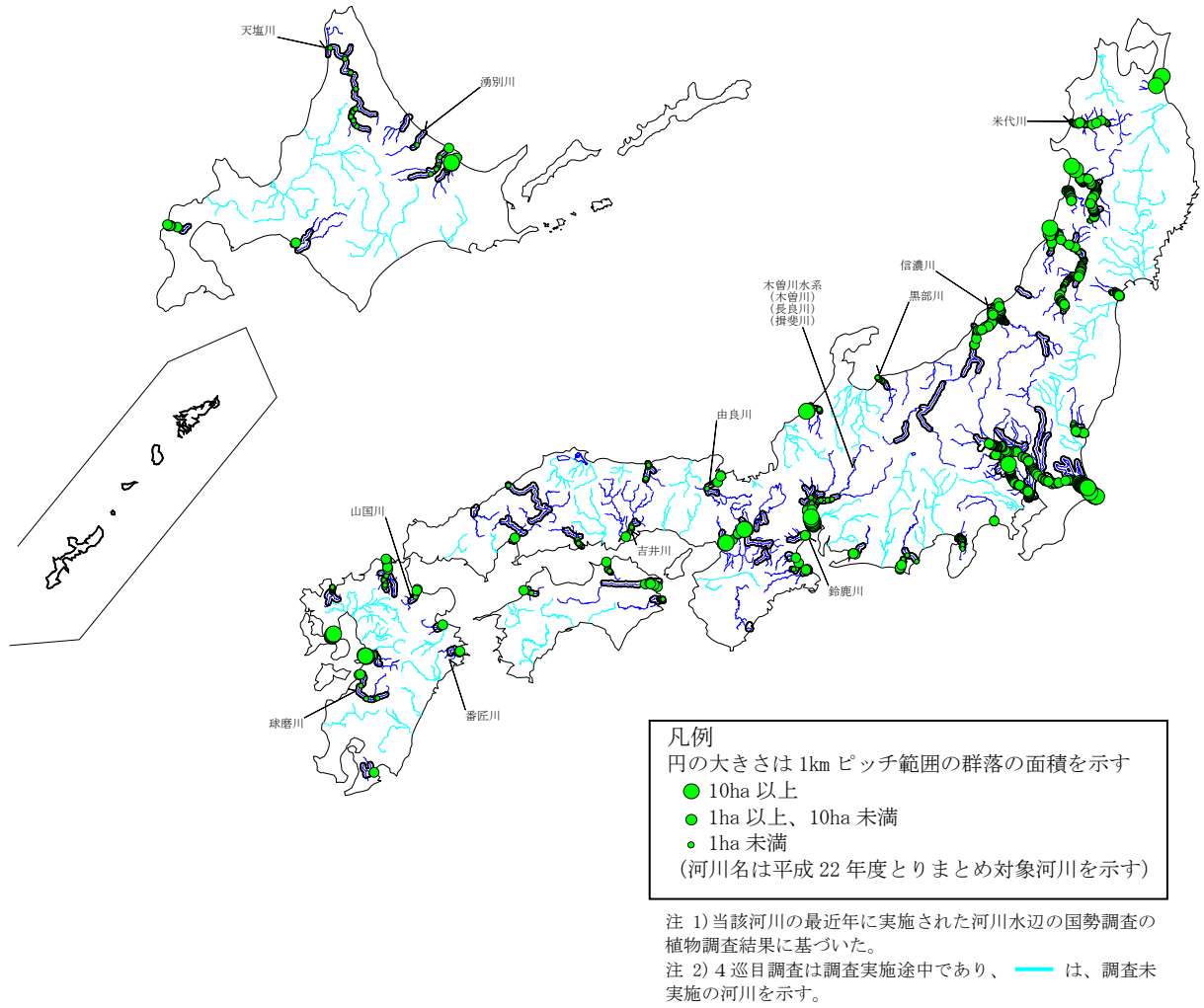
注4) []内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合(%)を示す。



凡例
 円の大きさは年間総確認個体数を示す
 ● : 100 個体以上
 ● (small) : 10~99 個体
 ● (smaller) : 10 個体未満
 ○ : 未確認
 〓 : 4 巡目調査 1km スポット設定範囲を示す。
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)
 (河川名は平成 22 年度とりまとめ対象河川を示す)

注) 4 巡目調査は調査実施途中であり、— は、調査未実施の河川を示す。

オオヨシキリ・コヨシキリの確認スポット (4 巡目調査)



参考図 4 巡目鳥類調査実施河川の1kmピッチのヨシ群落の面積

【河川に関わりの深い種（コアジサシ、コチドリ、イカルチドリ）の確認状況】（鳥類調査）

- ・ 砂礫河原で営巣するコアジサシを本州以南の 8 河川、コチドリを全国の 13 河川、イカルチドリを 12 河川で確認

河川での砂礫河原や砂洲の状況を把握するため、砂礫地で営巣するコアジサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況を整理しました。

コアジサシは、今回とりまとめを行った一級河川 14 河川のうち、本州以南の 8 河川で確認されました。コチドリは全国の 13 河川、イカルチドリは 12 河川で確認されました。コアジサシは下流で、イカルチドリは中流で多く確認されました。コチドリは下流から上流域まで広く確認されました。

（資料掲載： 4-15～16、4-41～42 ページ）

コアジサシは赤道を越えてオーストラリアから渡ってくる夏鳥です。日本では本州以南（西）でみられ、海岸や大きな川の河口や中洲のような、砂や砂利の上に簡単な巣を作って 2～3 個の卵を産みます。個体数が減少傾向にあるといわれ、環境省のレッドリスト（2006）では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。コチドリは、主に夏鳥として飛来し、川の中流から下流の砂礫河原、海岸の砂丘や埋立地などに営巣し、全国で繁殖します。イカルチドリは、日本では留鳥として本州以南（西）で繁殖します。主な生息場所は、コチドリよりも上流の河原で、氾濫原の礫の多いところで営巣し、砂や土の多い埋立地では繁殖しません。

コアジサシは、今回とりまとめを行った一級河川 14 河川のうち、本州以南の 8 河川で確認されました。コチドリは全国の 13 河川で、イカルチドリは 12 河川で確認されました。

確認位置をみると、コアジサシは下流から河口付近で多く確認されました。イカルチドリは中流域で多い傾向がみられました。コチドリは、河口から上流まで広く分布していました。

1～4 巡目調査全体での確認状況を比較すると、調査実施河川数に占める確認された河川数の割合に大きな変化はありませんでした。

1～4 巡目調査の確認河川数の比較

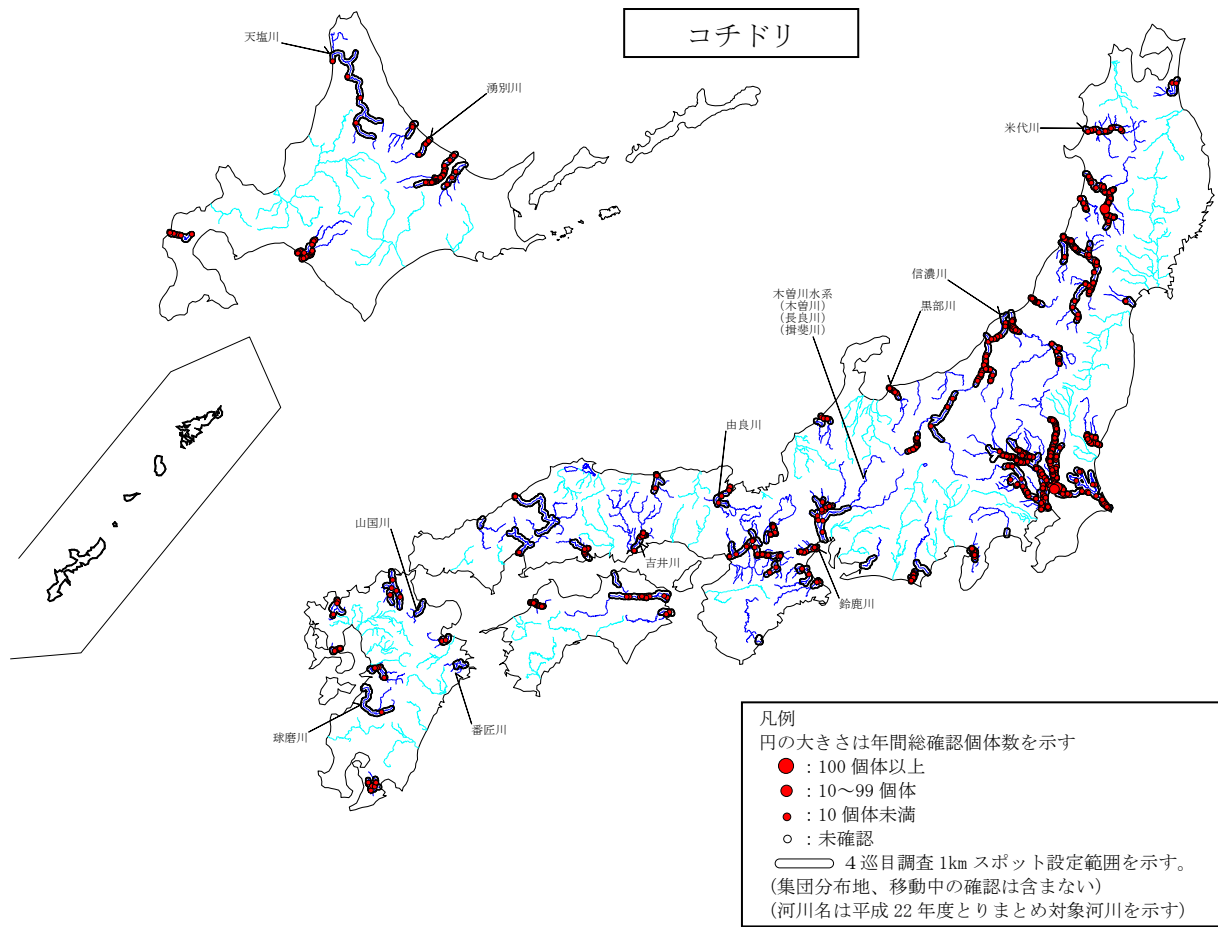
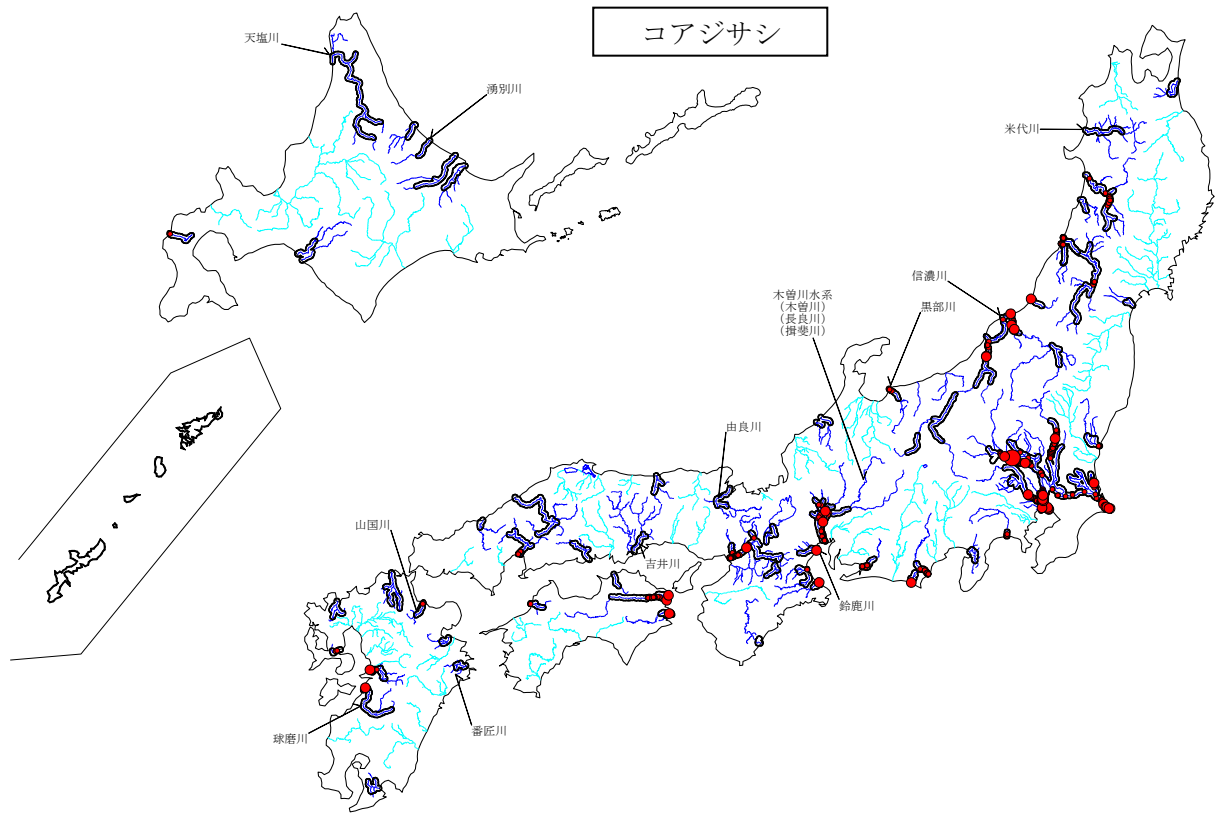
種類	1 巡目調査 (81 河川)	2 巡目調査 (118 河川)	3 巡目調査 (122 河川)	4 巡目調査 (70 河川)
コアジサシ	47 河川 [58.0%]	68 河川 [57.6%]	69 河川 [56.6%]	39 河川 [55.7%]
コチドリ	65 河川 [80.2%]	109 河川 [92.4%]	117 河川 [95.9%]	64 河川 [91.4%]
イカルチドリ	61 河川 [75.3%]	102 河川 [86.4%]	111 河川 [91.0%]	59 河川 [84.3%]

注 1) 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

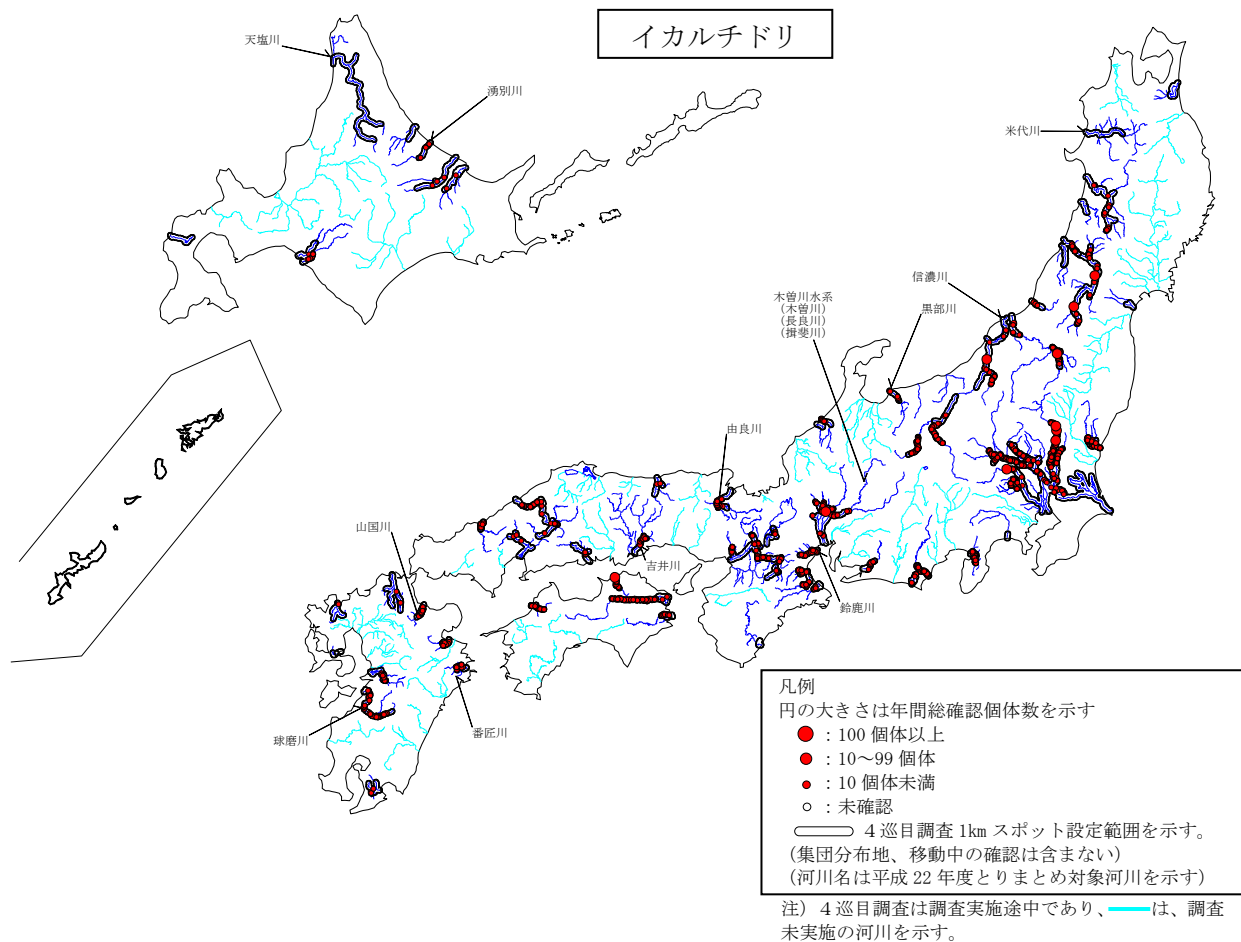
注 2) 1～3 巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

注 3) () 内は調査実施河川数を示す。

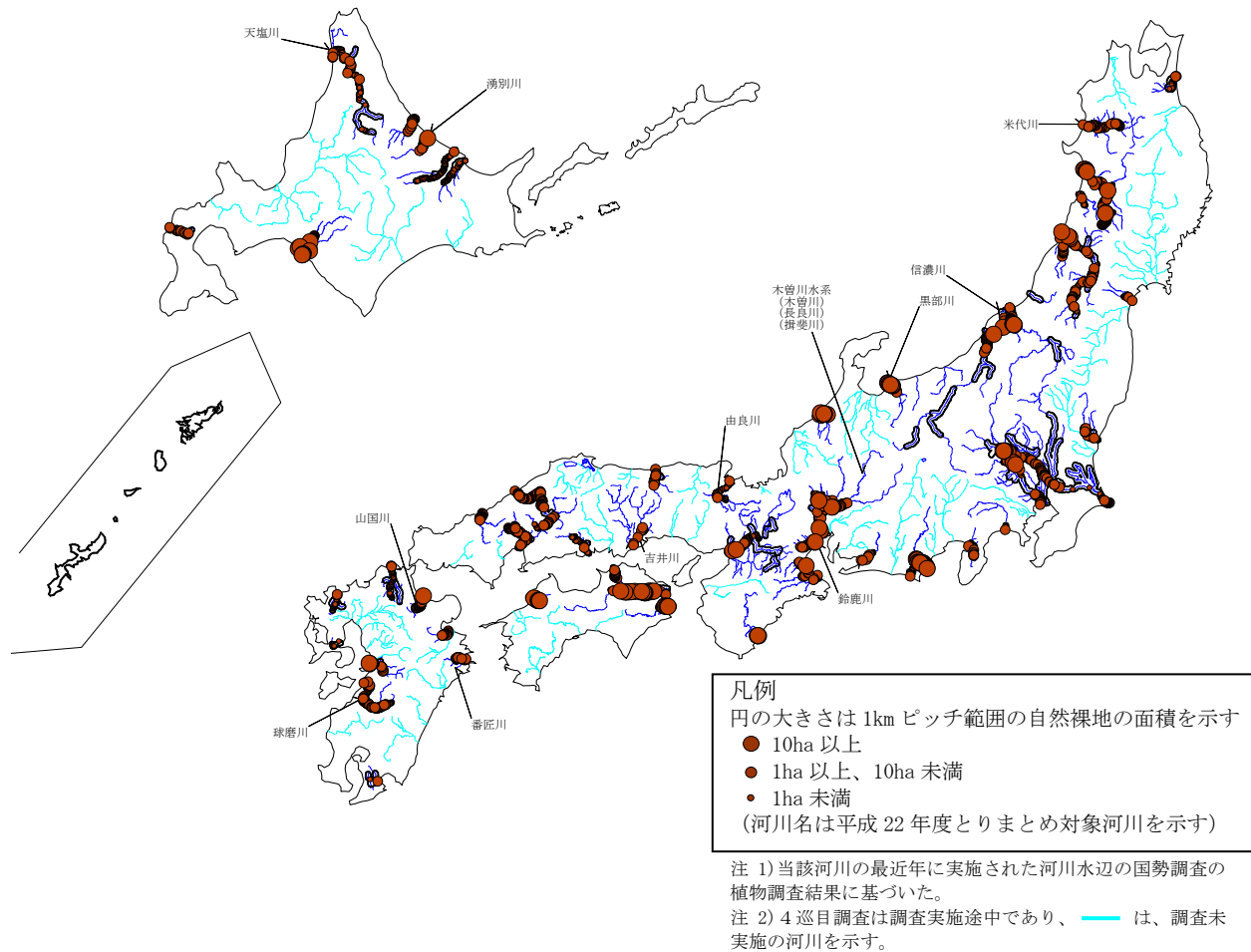
注 4) [] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。



コアジサシ・コチドリの確認スポット (4 巡目調査)



イカルチドリの確認スポット (4 巡目調査)



参考図 4 巡目鳥類調査実施河川の 1km ピッチの自然裸地の面積